

高校生と医学生のための 地域医療体験

報告書



2016年8月18日－22日

主催 大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座

後援 神河町
公立神崎総合病院

概要

目的

高校生

将来医療従事者を目指すための動機づけ・学習意欲の向上
地域医療の現場・現状を知る。
異なった地域や文化背景の人達との交流を計る

医学生

地域医療の実態を知る
高校生との議論を通じて初心に立ち返ることができる
高校生と一緒に活動することによりリーダーシップの涵養を計る

地域の人々

その地域をよりよく知っていただく
未来の医師がその地域に来るきっかけづくり
地域医療の現状の認識・理解を自らの再評価と他者からの評価により再確認する

日程

平成28年8月18日（木）～22日（月）

場所

公立神崎総合病院（8月18日～21日）

大阪医科大学附属病院（8月22日）

協力者

神河町

かんざき訪問看護ステーション

ケアステーションかんざき

神河町健康福祉課

地域医療を守る会

すずらんの会（病院ボランティア）

学生民家宿泊先

主催・後援

主催：大阪医科大学

後援：公立神崎総合病院

1日目

8/18 (木)

開会式

院長挨拶・参加者自己紹介

公立神崎総合病院に関するミニ概論

プログラム紹介・白衣貸与式

地域医療ミニレクチャー

夕食（歓迎バーベキュー）

宿泊先にて交流会

12:00 集合

14:00 開会式・レクチャー

打村院長 ご挨拶



鈴木教授 趣旨説明



谷課長補佐 地域医療ミニレクチャー



18:00 宿泊先へ

宿泊先にて
バーベキュー



2日目
8/19 (金)

体験
訪問看護・訪問リハビリテーション・病院内見学
昼食（古民家再生レストランで）
地域医療レクチャー
振り返り・発表
懇親会

9:00 体験

訪問看護



院内見学（透析室）



小児療育



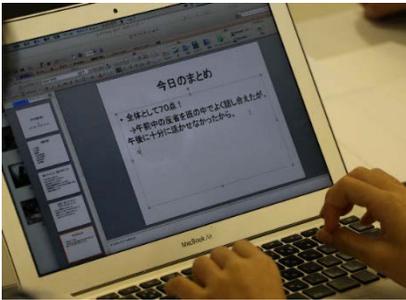
地域医療レクチャー 小児科 矢橋先生



古民家食堂にて昼食



17:00 振り返り・発表



18:30 懇親会



3日目

8/20 (土)

体験

手術室見学・医療のデモ体験

地域医療レクチャー

昼食（病院食を体験）

地域医療講話

振り返り・発表

民家へ宿泊



9:00 体験

腹腔鏡操作体験



手術室体験



エコー検査体験



地域医療レクチャー 内科 中山先生



縫合体験



病院食体験（昼食）



14:00 振り返り・発表



15:30 民家さん宅に宿泊



4日目

8/21 (日)

振り返り、まとめ
閉会式

9:00 振り返り・発表



11:30 閉会式



5日目

8/22 (月)

大阪医科大学 見学 (広尾学園のみ)

9:00 外来・病棟 見学



体験を終えて・・・

地元高校生の感想

神河町に住んでいる住民の方との連携がすごいと思いました。

神崎総合病院の患者さんは高齢者の方が多く、私達のように当たり前の生活が出来ない方もいますが、ボランティアの方などお互いが支え合って成り立っているんだなと改めて実感しました。私は訪問看護で優しく声をかけている看護師さんを見て私もこんな人になりたいと思いました。

訪問リハビリでの患者さんのお話がとても勉強になった。

医療人になりたいと言う意欲が高まった。

看護師になりたいと思っていたが、色々な人の話を聞いてもっと広い視野を持った方がいいと思った。

地域医療を守る会や、ボランティアさんがしてくださっていることを全く知らなかったが、今回参加したことで知ることができた。

実際に訪問リハビリや内科病棟を見て実際の医療現場を少し見ることができた。

どの医療者さんも声かけをして話をじっくり聞いておられた。

印象的だったのは「たくさん言うと混乱する」とあまり口出しをなさらなかった訪問リハビリの1件目での理学療法士さんとの会話。

医療従事者の方だけでなく地域のボランティアの方たちが協力していることが分かった。

看護師さんが、患者さんが驚かないように声かけをしていたこと。

9 高校生のときにこのような体験ができる人は本当に少ないと思うのでめぐまれているなと思った。また参加したい！！



体験を終えて・・・

広尾学園高校生の感想

過酷な医療現場の中で、それぞれの医師の方がそれぞれにやりがいを持ってお仕事をされている姿や、お医者さんと患者さんの信頼関係が印象的でした。

初めて会ったにも関わらず、他愛のない話から普段話さないような話まで沢山の話をできて4日間という短い時間の中で本当に仲が良くなって、本当に楽しかったです。

毎日学んだことを自分のなかで整理する時間があったおかげで、5日間という短い時間のなかで沢山のことを自分のものにできたと思います。

地域の人々と医療従事者が連携し、地域全体が支え合うことで成り立っていることを身を持って感じた。内科の外来では、患者さんが先生に対して心から信頼していて、それに対して真剣に応えている先生との間や、患者の家族内の愛を感じて印象的だった。その一方で、私が思っていたほど、医療はまだ理想的であり完璧なものではないということも知った。

誰か一人の意見だけでなく、チーム医療を作る様々な医療従事者の仕事や考え、また、地元の人々の意見を聞くことで、多くの視点からの意見を知ることが出来たこと。本や講演会などだけではわからないような医療や地域全体を知ることが出来たと思う。また、医学生先輩方と普段無いような交流をすることが出来たので、よりリアルな学生生活を知ることが出来てよかった。

それぞれの地域に適した地域医療の在り方が求められること。医療従事者だけでなく、地域の住民と連携することが大切であるということを実に学ぶことができた。

あまり看護には興味がなかったが、訪問看護で一番地域医療のリアルなところを見ることができたような気がした。また、院内見学で様々な人が連携していることを実際に感じる事ができた。

民泊では、地域の暮らしや、病院に対する本音なども聞くことが出来た。

神崎総合病院と大阪医科大学附属病院の違いを見ることで、都市部と農村部での医療の違いを見ることが出来た。

正直、地域なんてって思う気持ちが以前はあり、地域医療に対しても抵抗がありましたが、、悪いところばかりじゃないんだなというのが率直な感想です。訪問リハや民家泊は、貴重な体験で、考えさせられることも多くありました。

これだけ質・量ともに充実したプログラムをつくってくださり、スケジュールとして難しいことは分かるものの、民家さんとの時間がもう少しあればな、と思いました。

自分の将来を考える上で、今回のプログラムは非常に有意義なものになりました。本当にありがとうございました。

医学生の感想

良かったこと：

高校生も我々大学生も働き始めないと分からないような体験をすることができた。

改善してほしいこと：

医学部の学生だけでなく、看護や薬学の学生も参加して、多様な仕事があって、それぞれの仕事の良い所、悪い所などもディスカッションできて、高校生が進路を決定する上で参考になるようにできれば、もっと良いと思った。

医学生である自分が忘れてしまったような初心を思い出しました。病院の裏側を見ることができたときの感動や率直な感想など、高校生を見ていると昔の自分を思い出しました。

また、訪問看護の現場に行く機会はありませんでしたので、保健や介護制度の実際見ることができ、良かったです。

アルバイト以外で高校生と接する機会はなかったし、

自分が将来進む医療の世界に興味をもった高校生たちと関わることのできる機会は本当に貴重だと思います。私自身、この合宿に参加させていただいて

昔の自分を思い出したし、学生としての自覚も芽生えたように思います。（今更ですが）

このような経験をさせて頂けたことに感謝しています。

非常に高齢化や人口の減少が進んでおり、医療資源も全国的な平均と比べて不足しており、地域の中核を担う総合病院についても神崎総合病院しか存在しない、いわゆる医師不足という問題を抱える典型的な地域である反面、地域住民の地域の医療を自らの手で守っていこうという関心が強い地域であると感じる点もあった。

私自身、患者の病院を出た後の生活等、より患者の立場からみた医療を、病院の中で実習している今の時点で見ることが出来たことは、医療の在り方や、今後私が目指す医師の姿を考える上で役立てることが出来た点は良かった。

兵庫県全体で見ると、たくさんの病院があり医師や医療従事者の数も全国的にみると多い印象がありました。しかし、実際は病院や医療従事者、医療資源については大きな偏りがあり、兵庫県の南側には病院が集まっていますが、神崎総合病院の周りには他に大きな病院がないことを知りました。そのため周りの住民の方も病院を頼りにされており、病院側も住民の期待に応え必要な医療を提供するために様々な取りくみをされていると知りました。

良かったこと：実習を通して初心にかえれたこと。宿泊させていただいたお家のご夫婦どちらも医師で、移住してこられた方だったので、お話をお聞きして自分の将来を考えるきっかけになりました。

また、自分が提案して時間を増やしてもらったシュミレーション実習の時間は高校生たちも楽しそうに体験してくれていたと感じました。

地域医療体験を終えて



公立神崎総合病院
院長 打村 昌一

昨年に続き、大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座で企画されました「高校生と医学生のための地域医療体験研修」を当病院及び、当地域ボランティアの皆さんと共に実施させていただきました。

将来医師や医療関係に進みたいと考えている高校生、すでに医学部で入学し、医師になる為に研鑽している学生の皆さんが、それぞれ縦系列で班を構成しての体験を実習、体験されました。とくに白衣に身を包んでの実習は心身がひきしまったと思います。

今年もグループでの発表を聞く限り、そして、1日外泊させていただき、歓待いただいた地域の皆様のお話を聞く範囲では共に大変有益な時間を共有できたのではないかと確信しております。

地元の皆様から“よい医者さんになってよ”の一言が全員に新鮮かつ印象に聞えたのは私一人ではなかったかと思えます。

この様な企画が、これからも進化しながら続けて行く事が望まれます。

鈴木先生を始め医大のスタッフの皆さん、地域の皆さん、病院の関係者の皆さんに心から感謝致します。ありがとうございました。

地域医療体験を終えて



公立神崎総合病院
総合診療部長 中山一郎

大阪医科大学が主催する地域医療体験の舞台として、有り難いことに昨年に引き続き今年もまた、公立神崎総合病院及び神河町を選んで頂きました。今は、無事に終わられたことで取り敢えず安堵しています。

この体験学習には、医学部生・都会の高校生・地元高校生と相異なる立場の参加者それぞれが、医療現場に大きな興味を抱いてやってきますので、真摯に向き合わねばなりません。従って、当地のプログラムでは、ありのままの地域医療の現場を見て頂くことを念頭に、病院内外の多くのスタッフや地域住民の協力のもと、病院での日々の診療や取り組み、多職種を交えた地域医療の実践、住民宅の生活の体験等をして頂きました。

近年、医療機能の分担・連携のため都市部の大病院では病気や臓器を診る専門分化した医療となっていますが、神崎での医療は人と地域を診ていて、これが本質的な地域医療だと思います。

学生さんにとっては、実際の地域医療の現場に入り、其々が体験した事、感じた事が少しでも将来に生かされるよう願っています。

我々神崎の当事者にとっても、体験学習に來た若い息吹に触れ、当地の医療を再考し、地域医療の充実や発展に寄与できるようになれば意義有るものだと考えています。

最後になりましたが、体験学習を主催された大阪医科大学、参加各高校の関係者の皆様、加えて地域住民の皆様に深く感謝致します。

地域医療体験を終えて



広尾学園 中学校・高等学校
医進・サイエンスコースマネージャー
木村 健太

都市部の学校で医師を目指す高校生は、先端医療を含めた専門医療について知る機会が多い反面、本来医療の根幹をなす、人と人との繋がりの大切さを意識できる機会は少ない — 本プログラムを実施することになった背景にはそんな思いがありました。

本プログラムでは、事前の講演会の段階から「病気ではなく人を診る」との思いで、鈴木先生が語ってくださいました。また、生徒にとっては馴染みの薄い総合診療医についても、「鈴木先生のご専門は心臓ですか腎臓ですか」という質問に対して、「『あなたの専門家です』と答えるのが総合診療医だ」とお話をくださり、生徒も私も大いに感銘を受けました。

一方、神河町では、地元の高校生をはじめとした地域の皆さんの温かさに触れ、生徒は人間として大きく成長する機会を得ました。患者側の視点で訪問看護をみつめ、患者家族のリアルな現実に触れたり、実際の生活の中で地域医療を考えることで、医療における人と人との繋がりを体験的に学ぶこともできました。特に地域と密着した公立神崎総合病院の先生方の姿勢が、地域医療の現実を生徒たちを向き合わせてくれました。そして何より、メンターとして生徒をサポートし続けてくれた大阪医科大学の医学生たちは、生徒の将来のロールモデルとなり、寝食をともにする中、自らの熱い思いを聞かせてくれたことで生徒たちの心に火を灯してくださいました。

本プログラムにご尽力くださった皆様に、この場を借りて御礼を申し上げます。

地域医療体験を終えて



大阪医科大学
5年生 莊子万能

大切な夏の恒例行事「高校生と医学生のための地域医療実習」がはじまり、早二年。毎年、新たな出会い、新たな参加者との化学反応があり、新たな発見と学びに満ちた実習を過ごさせていただいております。昨年に引き続き、今年も全面的にご支援いただいた、公立神崎総合病院の職員の皆様、自治体職員の皆様、「地域医療を守る会」をはじめとする神河町の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

昨今のネット社会においては、遠く離れた土地の様々な情報を得ることができます。そんな時代だからこそ「その場に行かないと体験できないこと」や「人と人が直に交流すること」がかけがえのない価値を持つように思います。地域と病院とが密接なつながりを持ち、顔が見える関係の中で医療が成り立っている神河町には、まさに「医療の原点」があるのではないかと思います。都市部で医療を学ぶ私たちがしばしば忘れがちになることを、ここ神河町に来ると見つめ直すことができます。

この体験を通じて得た学びは、私たち医学生がこれから医師になる上で、高校生の皆さんが医療従事者を目指す上で、大きな糧となることを確信しています。こんなにも素晴らしい体験のために、ご尽力いただいた関係者の皆様、特に神河町の皆様へのご恩に報いるため、より良い医療人となるべく、より一層勉学・自己研鑽に励んでいきたいと存じます。本当にありがとうございました。

地域医療体験を終えて



大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座
特別任命教員助教 三澤 美和

4月に大阪医科大学に赴任し、私にとっては初めての地域医療実習のお手伝いをさせていただきます。充実した内容の中で、高校生と医大生が緊張の中出会い、様々なアクティビティを通してそれぞれ「チーム」になっていく様子がとてもたくましく思いました。参加者のバックグラウンドは様々で、目指す職種も多様な中で、それぞれの視点で「病院」「地域」「医療」を体感し成長してくれたのではないかと思います。このプログラムにはいくつかの要素があります。高校生にとってはこれまでリアルでなかった世界を体感ししっかり考え成長すること、特に「地域」そのものを感じることに、医大生にとっては大学病院の医療とまた異なる、地域でのつながりある医療とは何かを間近で見ながらチームをまとめるという役割を担うこと、神崎総合病院の先生方、スタッフの皆様にとっては日常にある医療・地域をまた見つめ直し、若者の教育というもう一つの役割を感じていただくこと、また、神崎の地域の方々にとっては「自分たちの住んでいる地域」を改めて感じていただき若者との交流をしていただくこと。今年もまた一つ、それぞれの胸に足跡は残せたのではないかと感じています。今回の実習を通してそれぞれの参加者、協力者から多くの感想、ご意見をいただき、次回にむけてさらに進化するプログラムにしたいと思っています。実習にあたり大変なご尽力をいただいた神崎総合病院と神崎の地域の関係者の皆様に心から感謝しつつ、来年にむけて始動したいと思えます。

地域医療体験を終えて



大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座
特別任命教員教授 鈴木 富雄

昨年に引き続き、本年の8月18日から21日まで4日間に渡り、公立神崎総合病院と神河町にて「高校生と医学生のための地域医療体験実習」が行われました。大阪医大の医学生4人、東京広尾学園高校の高校生4人、地元の香寺高校・福崎高校・生野高校からの高校生4人、総勢計12人が参加してくれました。昨年の振り返りを踏まえ、本年は地元の高校生もロッジに宿泊し、医療・医学への熱い思いや大学生活に対する夢など、毎晩皆で夜遅くまで、全員でゆっくりと語り合う機会が持てました。「訪問看護や訪問リハビリへの随行」、「超音波検査」や「縫合実習」、「手術室体験」や多職種の方々による「地域医療に関する講義」など多彩なプログラムに加え、3日目の夜はメインイベントの、地域住民の方々のご自宅で一泊してお話をうかがう「お泊り実習」もさせていただくことができました。机の上の勉強では決して見えてこない地域住民の方々との真のニーズや、医療資源の乏しい中で多職種の方々関わっての様々な工夫など、本当に貴重な学びを得ることができました。

医学生と都会の高校生と地元の高校生とが3人一組で行動し、医学生がリードをしながらグループごとの振り返りを発表し合い、毎日皆でその学びを共有しましたが、初日のごこちない発表が、最終日には全員が大きくうなずいて聞き入ってしまうほどの見事な発表となり、高校生の学びの意欲とその成長のスピードに、本年も驚かされました。

今回の実習では、公立神崎総合病院の打村先生、中山先生をはじめとする職員の方々や、地域医療を守る会を主体とした地域住民の皆様方に、大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

大阪医大と公立神崎総合病院との絆が一層深いものとなり、この企画を通じて、学生たちの学びのみならず、地域の活性化という観点から、少しでもお役に立つことができたら幸いに存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

